

リハビリテーション学部
理学療法学科

暮らしも、スポーツも。
身体の特化を目指して



出席教員紹介

学科長：山内 正雄（教授）

3年担任：大西 均（准教授）和智 道生（講師）

千住 秀明（教授）・分木ひとみ（准教授）・安田 孝志（准教授）

4年間の大学での学びの概要

1年次：基礎科目中心

2年次：理学療法理論科目群中心

3年次：職業実践科目群および展開科目群中心

4年次：総合科目群および国家試験対策

※臨床実習は、各年次で実施

臨床実習 期間

配当年次		科目名	単位数	時間 (時期)
1 年次	前期	理学療法見学実習 I	必修 (1)	45時間 (9月頃)
	後期	理学療法見学実習 II	必修 (1)	45時間 (3月頃)
2 年次	前期	理学療法見学実習 III	必修 (1)	45時間 (9月頃)
3 年次	前期	理学療法評価実習	必修 (4)	180時間 (6月頃)
	後期	理学療法総合臨床実習 I	必修 (6)	270時間 (1月頃)
4 年次	前期	理学療法総合臨床実習 II	必修 (6)	270時間 (4月頃)
		理学療法地域実習	必修 (1)	45時間 (6月頃)

3 年次後期のスケジュール

- ・ 授業では、理学療法に関連領域を学ぶ展開科目を中心に講義と実習を行う予定。
- ・ 担当教員と調査や研究を行うゼミ活動は、すでに夏休み中から始まっており、11月25日に全体で発表会を行う予定。

- ・ 11月24日（木）：臨床実習指導者会議（オンライン）
- ・ 12月12日（月）～12月16日（金）：後期試験
- ・ 12月19日（月）～12月23日（金）：実習前セミナー
- ・ 1月9日（月）～2月19日（日）：理学療法総合臨床実習 I
- ・ 2月20日（月）～2月24日（金）：実習後セミナー

4年次のスケジュール

理学療法総合臨床実習Ⅱ：2023年4月10日（月）～5月21日（日）

※臨床実習Ⅰの単位取得者のみ受講可能

理学療法地域実習：2023年5月29日（月）～6月4日（日）

or 2023年6月5日（月）～6月11日（日）

4年次のスケジュール

地域実習後：

（前期）

- さまざまな現場で学ぶ応用論実習（後期も継続）

（後期）

- 理学療法管理学や障がい者スポーツ論など
- 総合科目群
- 国家試験対策講座や模擬試験

2月中旬：国家試験受験予定（今年度は2月19日）

3月初旬：卒業式

臨床実習について

理学療法総合臨床実習Ⅰ：2023年1月9日(月)～2月19日(日)：3年次
理学療法総合臨床実習Ⅱ：2023年4月10日(月)～5月21日(日)：4年次

- 6週間の実習を医療提供施設（病院や診療所等）で実施予定。
- 基本的には週休二日だが、実習時間は施設の基準に従う。
- 基本的には2名の学生で実習に行くが、一部は4名や1名で実施。
- 滋賀県を中心に京都府、大阪府、福井県で実施予定。
- 実習施設は、すべて自宅や下宿先からの通学できる予定（90分以内）。
- 状況が変わり病院寮やレオパレス等に下宿した場合の費用は大学負担。
- 実習施設までの交通費は各自実費負担。

実習への支援体制

実習支援センターの設置

- 実習前のセミナーで技術や知識の整理と向上ができるよう指導。
- 臨床実習指導者との事前の会議にて指導内容の統一。
- 臨床実習中は、夜間や休日などでも相談できるように携帯電話を使用。その他、manabaを通じて全教員と連絡可能。
- 臨床実習施設それぞれに担当教員を配置し、指導者と電話やメールで随時学生の状況を確認。
- 臨床実習期間中に、担当教員が施設へ訪問し指導。

国家試験対策について

理学療法士国家試験について

- 国家試験は年に1回実施される。
- 試験会場は養成校毎に会場が異なり、当大学の場合は大阪で実施される。
- 試験開始時間は、早朝からの開始となる。そのため当大学の教員引率の元で前日に大阪のホテルに宿泊して試験に臨む予定。

国家試験問題の動向

- 国家試験に出題される問題は、過去の国家試験の類似問題から70%程度が出題されるという傾向がある。出題科目についても基礎医学（解剖学、生理学、運動学）と、理学療法専門科目（評価学、各疾患別理学療法）が高い出題率である。近年では呼吸器やがんなどの臨床的な問題が徐々に増えてきているという傾向があり、**難易度がわずかであるが上がってきている**。
- 出題傾向が大きく変化しないため、国家試験の合格率（表. 国家試験合格率の推移）は大きく変化することなく**過去5年平均で85%**である。ただ、**合格率は新卒者で高く、既卒者では低い（既卒者では40%以下）**。そのため新卒での合格を目指すことが重要である。

国家試験合格率の推移 (全国)

	第51回	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回	第57回 (今年)
受験者数	12,515人	13,719人	12,148人	12,605人	12,283人	11,946人	12,685人
合格率	74.10%	90.30%	81.40%	85.80%	86.40%	79.0% (新卒86.4%)	76.5% (新卒88.1%)

滋賀医療技術専門学校での新卒合格率

	第52回	第53回	第54回	第55回
受験者数	37人	46人	33人	50人
合格率	97.30%	97.80%	97.00%	76.00%

国家試験対策 – 3年次後期

- 国家試験に出題される科目の中で、基礎医学がすべての基盤であり高い出題数であることから、**基礎医学分野の知識の習得**を国家試験対策のスタートとします。
- 夏季休暇中の課題として、国家試験基礎医学を課し、**夏季休暇明けに基礎医学分野の学内模擬試験**を実施。結果を基に基礎分野の学習到達範囲が低い学生に対して、補習を実施し基礎分野の学習を支援します。
- ただ3年後期の1月からは、1回目の臨床実習が始まるため、臨床実習に備えた知識と技術の習得が優先されます。

国家試験対策－4年次前期

- 実習が中心となる時期。4月から2回目となる6週間の臨床実習を経験することで学内での学習が実際の体験を通じて、記憶として定着する時期。この時期の経験がその後の学習への意欲だけでなく、机上の理論が臨床に繋がるという具体的イメージが形成される。
- 夏季休暇中は、国家試験対策の課題を果たすことで、後期からの国家試験に意識を向けていく。

国家試験対策－4年次後期

- 夏季休暇中においては、実習を終え具体的なイメージが形成されていることから、理学療法専門科目（評価学、各疾患別理学療法）の課題を課し、**夏季休暇明けには学内模擬試験**を実施する。10月から本格的に国家試験対策を実施し、**全国模擬試験にて学習の到達度と未修得範囲の分析を個別で行い、効果的な学習の進め方について個別指導**を実施する。
- また過去の国家試験問題については、**学内で約10年分にわたる問題を複数回実施することにより、類似問題（70%）は確実に取れるように対策を進める**。後期以降は基礎医学分野～専門分野の国家試験対策講義を実施し、**国家試験解答のコツ**について指導を行う。
（例：記憶のコツ、選択肢の消去方法（国家試験は5択式）、過去の出題傾向から知識の整理など）

国家試験前日（2月中旬）

- 国家試験会場は毎年、養成校毎に会場が異なる（大阪で実施）。早朝からの試験となるため教員引率の元で前日に大阪のホテルに集合し、安心して会場に入れるように教員が試験会場まで案内する（不安な心理状態は解答結果に反映されるため）。

国家試験対策に関する費用負担（予定）

- 国家試験対策テキスト：30,000～40,000円程度
- 国家試験模擬試験費用：25,000円程度
- 国家試験受験費用：10,100円
- 国家試験前日の宿泊費用：10,000円程度

就職について

就職実績

- 令和2年に閉校した滋賀医療技術専門学校は、滋賀県下唯一の理学・作業療法の養成校
- その卒業生は、理学療法士が約700名、作業療法士が約500名
- 滋賀県内に勤務する理学療法士・作業療法士の約1/4が本学の卒業生である



滋賀医療技術専門学校での就職の実績

就職率は例年100%

19期生就職実績

今津病院
ヴォーリス記念病院
近江八幡市立総合医療センター
京都リハビリテーション病院
公立甲賀病院
滋賀医科大学医学部付属病院
東京医科大学病院
堤整形外科 など

20期生就職実績

愛生会山科病院
甲南病院
神崎中央病院
済生会守山市民病院
洛西シミズ病院
米原市地域包括医療福祉センター
角谷整形外科 など